

地球温暖化化学ぶ

秩父でアカデミー 児童ら科学実験

子どもたちが郷土の森に目を向け、科学に興味関心を持



二酸化炭素を発生させる実験を行う小学生ら。3日午前、秩父市上町の県立秩父高校

ってもらおうと、日本薬科大学、県立秩父高校、NPO法人秩父百年の森は3日、秩父市上町の同校で「秩父サイエンスアカデミー」を開催し、秩父地域の小学5、6年生32人が科学実験を体験した。同大と秩父地域の1市4町で組織する「ちちぶ定住自立圏」との包括連携協定の一環で、子どもたちの「科学する心」を醸成することが目的。前半で同NPO副理事長の島崎武重郎さんが秩父の森、同大特任教授の野沢直美さんが地球温暖化などについて

講義。後半で参加者たちは同校の生徒らのアドバイスも受けながら、重曹とクエン酸を使って発生させた二酸化炭素の性質や温室効果を調べたほか、紫外線の実験も実施し

バッグと鞆の専門店



あぶらや

浦和駅西口前

Tel. 048-822-2342

〒330-0063

さいたま市 浦和区 高砂1-6-10

<http://www.aburaya.co.jp>

た。

参加した市立花の木小学校6年生の渡部大樹君(11)は「地球の温暖化やオゾン層のことについて考えてみたいなと思った」と話していた。

(桜井和憲)